

同仁會の
諸卿へ

社説



Semanario de S. Paulo

Rua Platão, 6-15, 4-72

Caixa Postal, 58 BAUER

Director & Redator

ROCKO KOWYAMA

ASSIGNATURA

Anual 25.000

Semestral 16.000

Trimestral 8.500

Mensual 3.500

Semana 900

Preço de assinatura

全額金額

年額金額

半額金額

月額金額

季額金額

半年額金額

年半額金額



地民植人邦語物昔今

生キマタ
(四)

ある。

一九二七年七月十日城間、原

グワイナラ本田好、上原清加那

功や實に多とせねばならぬ、若

「木下誠一、入谷貞夫」ナンジョン

篠、本田、佐伯、鞍留潔、木村、バルミツ

利、野田十三郎、秋山金五郎諸氏

サンドミンゴ田中勇、植田芳雪

二八年八月、ソス市フクダギ

主唱して各植民地青年會代表委員

員三十名と集會協議を遂げ、定美、コルゴラフコ横田周一、秋

アンナ兩チム對ソス混成チ

歌の作成、委員の選定を行ひ會

名を汎、ソス青年會——Asso

tacio de Mocos Nipponico——と

並に親睦を計り兼ねて日伯親善

回北西線聯合青年陸上競技大會

に費し廣く社會奉仕に任する

と完成度に成立宣言の第一聲を以て目的とし、邦人郵便物取扱

会に至つた、同月三十日第二回總

代委員會を開き會館建設の

計畫を立て翌十月二日空閑貢太

郎所有ルキスマ街三十四番

の宅地並建物共之を購入して況

ソス青年會とした、即ち現

即ち一九二八年八月第一回農事

講習會を開き次いで一九三〇年

新新聞雜誌の取次、圖書館及巡

回圖書の施設、機關誌共鳴

スボーラの隆盛、青年の元氣を

振興することに精進しある

最近野球部の新設を見、又龍江

義信氏贈贈にかかる鍾道具も

ロミソン驛にて行はれた第一

外委員熊坂梯助、弁論委員森

田紹次、運動委員岩本繁、陸上

主將木下誠一、野球主將近藤守

一喜にして會員總數貳百名内外といふ、現在委員は執行委員

長木村利、副委員長増山房吉、

外委員熊坂梯助、弁論委員森

田紹次、運動委員岩本繁、陸上

主將木下誠一、野球主將近藤守

一喜にして會員總數貳百名内外といふ、現在委員は執行委員

長木村利、

坂東侠客陣

(28)

月の光を半身にうけて、水鶴橋の上を行く乾先之助のうしろから、蝙蝠の影の如く、音もさせず聲も立てず、飛び菟つた平手造酒。氣合無しの黙まゝ斬りは、彼が常習に行ふ必殺の法だ。あはやかに、左の肩ねらりに振る顎つた先之助が、はづと睨みつけた炬眼。口中の斐いの息を含んで、グイと伸びかけた造酒の肘が、その時、一氣に伸びて丁へば先之助は真ツ二つであらうものを、何故か、彼は踏み止まつたと同時にポンと四五尺元へ跳び退ひいてしまつた。

無論、その間髪に、先之助の手も遅く柄にかゝって丁つた。息を抜いた後で、伸びた造酒の肘が、そのままに、百鍊百殺の一刃に抜き落び、なかつたらうか。同じ太刀にも、生劍と死劍とが、ある。斬り返しも利き、變化も所で、造酒の得意技、駆けこみで、抜き、躊躇ひ、斬り流す限りの行き方に、死劍と云つて兵家の最も嫌ふところだ。

拔き討ちの場合は、仕掛ける方には、死劍と云つて兵家の最も嫌ふところとなる。一方の勝負に命の落しことなる。そのため、先之助の方も實は微かな勇氣を發揮して、身に迫つてくる者からを覺ゆるが、萬が一に限られる。先の助の方も實は微かな勇氣を發揮して、身に迫つてくる者がある。しかし、同時に、五體鶴毛の隙もなくして、先之助の方も實は微かな勇氣を發揮して、身に迫つてくる者はいない。決して達人とは云はねない。

また、先之助の方も實は微かな勇氣を發揮して、身に迫つてくる者がある。しかし、同時に、五體鶴毛の隙もなくして、先之助の方も實は微かな勇氣を發揮して、身に迫つてくる者はいない。

いかない、酒造がいつもの傳で飛ぬつたなと思ふと、先之助の小かな、酒造がいつもの傳で飛ぬつたなと思ふと、先之助の小

の手ごたへもなく、怖るべき先之助のつばの頭へ、自ら腹體を横たへまいものでもなかつた。「こやつ、御腰殿に出る社幹だ。」先之助はてつきらさう思つて病を握りながら對手をみつめ直すと面は蒼白、眼光鋭く、眉間に立て鐵を刻んだら若い浪人が豹の如く瘦せた體を斬らせ、吹きつけるやうな殺氣を壓して、ジリ、ジリと詰め寄つてくれる。

何様、飛びかゝつて來がる速に踏み退いた今の身姿をひと瞥して、急いで飛び退ひいた先之助もビックリと構へどる。危くそぞろかはした造酒は、先之助の弱いか、或は、うでに差があつた。怒氣は剣法の最も忌むことだが彼の押さへ切れないと云ふ意と云ひ、決して凡庸な劍客ではない。怖るべし一流の達人たるところ瞭かである。これは

北に居た造酒は南に、南に立つてゐた先之助は北に、その位置を取りかへて、グリッとき上を右八相の位置から、造酒の構製へナット削りつけた。危くそぞろかはした造酒は、先之助の弱いか、或は、うでに差があつた。怒氣は剣法の最も忌むことだが彼の押さへ切れないと云ふ意と云ひ、決して凡庸な劍客ではない。怖るべし一流の達人たるところ瞭かである。これは北に居た造酒は南に、南に立つてゐた先之助は北に、その位置を取りかへて、グリッとき上を右八相の位置から、造酒の構製へナット削りつけた。危くそぞろかはした造酒は、先之助の弱いか、或は、うでに差があつた。怒氣は剣法の最も忌むことだが彼の押さへ切れないと云ふ意と云ひ、決して凡庸な劍客ではない。怖るべし一流の達人たるところ瞭かである。これは

北に居た造酒は南に、南に立つてゐた先之助は北に、その位置を取りかへて、グリッとき上を右八相の位置から、造酒の構製へナット削りつけた。危くそぞろかはした造酒は、先之助の弱いか、或は、うでに差があつた。怒氣は剣法の最も忌むことだが彼の押さへ切れないと云ふ意と云ひ、決して凡庸な劍客ではない。怖るべし一流の達人たるところ瞭かである。これは

北に居た造酒は南に、南に立つてゐた先之助は北に、その位置を取りかへて、グリッとき上を右八相の位置から、造酒の構製へナット削りつけた。危くそぞろかはした造酒は、先之助の弱いか、或は、うでに差があつた。怒氣は剣法の最も忌むことだが彼の押さへ切れないと云ふ意と云ひ、決して凡庸な劍客ではない。怖るべし一流の達人たるところ瞭かである。これは